

コラム⑭ 不登校児童・生徒への対応

小5子どもアンケートでは、これまでに「学校に行きたくないと思った」ことがあるかを尋ねた設問に対して、「よくあった」、「時々あった」と回答した割合は全体で48.4%となり、前回調査と比較して約7ポイント上昇する結果となりました（25ページ参照）。支援者ヒアリングでは、「子どもが不登校の場合、家族が社会から孤立し、援助希求も弱く、複数の公的支援機関が関わっていたとしても支援介入が難しい」場合があるとの指摘がありました。子どもの貧困対策の観点からは、登校児童・生徒が相談支援につながり、居場所があることが重要です。

区では、「大田区不登校対策基本方針」及び「大田区不登校対策アクションプラン」を策定し、すべての児童・生徒が安心して生活できる学校環境を構築し、豊かな人間性を育み、未来を創る力を伸長する目的のもと、不登校の未然防止、早期支援、長期化への対応を推進しています。

「つばさ教室」は、不登校の児童・生徒が通う「教室」です。少人数の温かい雰囲気の中で、自主学习、体験活動、スポーツなどを行うことで、不登校状態の子どもに対して、学びや居場所の保障など、ニーズに合わせた支援を行います。

令和3年4月には、在籍校への復帰が困難な生徒への支援として、東京23区の公立校としては初となる、不登校特例校分教室「みらい教室」を開設しました。こちらでは、特別な教育課程による指導で、社会的・職業的自立に向けて必要となる資質や能力を身につけられるよう、少人数指導、体験活動を多く取り入れたキャリア教育を実施しています。今後も、不登校の状態によって、子どもたちの豊かな心や未来を創り出す力が阻害されることのないよう、個々の状況に応じて社会的な自立につながる支援を充実していくことが必要です。

そのため、将来的な不登校特例校本校の設置をめざし、令和4年度は、不登校特例校の教育理念や教育活動を具現化した基本構想及び基本計画の策定に着手します。本校がめざす学校像は「多様な学び方を保障し、個性が生きる学校」、「つながりを重視し、社会性が伸びる学校」、「『体験』と『感動』を重ね、自立をめざす学校」です。また、「子どもや家庭の負担を軽減し、安心できる学校」として、明日も登校したくなる魅力的な学校づくりを行います。

また、すべての区立小・中学校には、「スクールカウンセラー」を配置し、不登校、いじめなどの未然防止や解決のため、児童・生徒の悩みの相談に応じるとともに、教員や保護者に対して指導・助言を行っています。

教育センターには、福祉の専門家として「スクールソーシャルワーカー」を配置し、特に学校や関係機関との連携が必要なケースについて、支援を行っています。

不登校の状態によって、子どもたちの豊かな心や未来を創り出す力が阻害されることのないよう、子どもたち一人ひとりに寄り添った支援を継続してまいります。



つばさ教室（外観）